

森林火災深刻なインドネシアへ

日本製消火剤を提供

【ジャカルタ＝一言剛之】東南アジアで深刻な大気汚染や経済損失を引き起こしているインドネシアの森林

火災の消火活動に活用してもらうため、日本の大学と企業が開発した特殊な消火剤が提供される見通しとな

◆新型消火剤の特徴

遠くに、正確に放水できる



地表を覆い、再出火を防ぐ



った。日本側はインドネシアを手始めに、森林火災が多い米国や豪州などへの売り込みにつなげたい考えだ。

日本政府は、政府開発援助(ODA)の一環として、インドネシアに無償で提供する方向で調整している。

同国の国家防災庁は、森林火災が起こりやすい乾期が始まる5月以降、実験的に使い、効果が実証されれば、本格的に採用する方針だ。

鳥取大と環境事業などを手がける鳥取県米子市の企業「イルカレッシュ」が共同開発した消火剤で、日本で

ヘリコプターなどからの消火に使うため2013年から実証試験してきた。消火剤は粉末状で、パックに入り、河川などから引いた水と混ぜて使う。水に粘り気が出るため風に流されにくく放水距離が伸び、照準が定めやすくなるのが特徴。

同国の森林地帯は燃えやすい泥炭層の土壌が多く、地中で火がくすぶり続け火災が長期化しやすい。放水後、土壌に吸収されず地表を覆い、再出火や延焼を防ぐ効果もある。消火剤はトウモロコシなど植物由来の成分から作られており、約2週間で分解され、環境へ

の影響は小さい。同国では海洋大気局によると、17年農地開発のために「野焼き」が行われており、森林火災が発生しやすい一因だ。米00か所で火災が観測された。

THE YOMIURI SHIMBUN

読賣新聞

2018年(平成30年)

1月16日 火曜日